

Quicherat, Jules

Histoire du costume en France ; depuis les temps les plus reculés jusqu'à la fin du XVIII^e siècle.

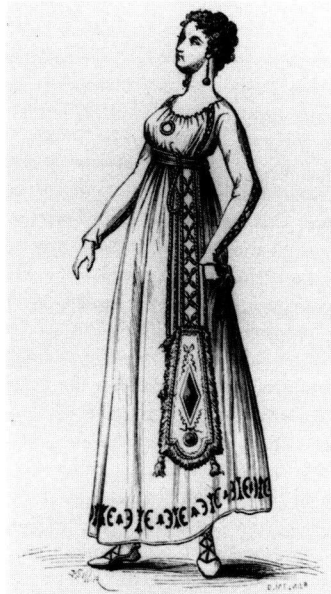
Paris, Hachette, 1875. (文献番号 3-228)

Hiler p. 730 Colas 2459 Lipperheide 1095

キシュラ著

フランス服装史；考古学的年代から18世紀まで

1875年にパリで発行された服装史書である。副題にもみられるように、考古学的年代からフランス革命までのフランスの服装について、考古学者でもあった著者キシュラ(Quicherat)が正確な観察眼で記述し、解説している。シュビナル(Chevignard)、ポーケ(Pauquet)、セリエ(Sellier)の三者による精密な木版画 481点は、既に見ることもなくなった古い時代の衣服の構造、着装方法などを文字による複雑な描写よりも具体的に説明したいという意図のもとに挿入された。14世紀からフランス革命までは、1845年から1869年までキシュラが「マガザン・ピトレス」(Magasin Pittoresque)のために著した連載記事が基本となったが、著者はそれを本書のためにさらに念入りに加筆し、訂正している。1833年から20世紀はじめまで続いたこの雑誌は、様々な時代と地域に及ぶ衣服に関する種々の記事が掲載されていた。また、14世紀以前については、原始時代のフランスの洞窟その他から発見された壁画、衣服の断片、装身具、布地、身のまわり品など考古学的実証に基づいて衣服の外観と着装方法、戦いの衣服と武具などが解説されている外、著者はその衣服が着用された基本的な思想についても触れている。しかし、歴史自体については細部には触れず必要と思われる大きな出来事だけを取りあげ、また風俗・産業・商業についても、既に誰もが、これらの事柄が本質的に服装の歴史にかかわっていることを理解しているので、本書では特にこの問題に触れなかったと述べている。本書の著者・ジュール・キシュラは1814年にパリに生まれ、1882年同地に没した。服装史家、考古学者として知られ、兄は哲学者ルイ・キシュラ(Louis Quicherat, 1799-1884)である。著者には、本書の他に「ジャンヌ・ダルクの死刑宣告裁判とその名誉回復」(Le procès condamnation et de réhabilitation de Jeanne d'Arc)などがある。なお、本書は1877年に再版されている。図はカラカッタ風髪型をしてローマ風の衣装をつけ、わきにバランティーヌ(balantine 刺繍をしたバック)を吊した1790年代パリの女性。



Costume à la romaine, coiffure à la Caracolla, la balantine au côté. (La Mesangère, Costumes parisiens.)